2014年（平成26年）4月18日（金）
上毛新聞

農村の成り立ち学ぶ

甘楽 JICA若手職員視察

国内の農村の成り立ちや暮らしについて理解を深めようと、国際協力機構（JICA）職員有志の20代男女6人が東京から甘楽町を訪れ、昔ながらの石垣を積んだ段々畑でソバを育てる秋畑地区や道の駅甘楽の農特産物売り場などを見学した。

一行は仕事で関わる発展途上国だけでなく日本の農村の実情も知ろうと、休暇を利用し「里山の旅」と題して3年前から各地を見学している。

今回は、元青年海外協力隊員でNPO法人自然塾寺子屋理事長の矢島亮一さんの紹介で初めて来県した。

町役場で懇談した茂原荘一町長は、2月の大雪では住民の協力で除雪が早く済んだことなどを例に「地域の強いつながりが活力を生み出してきた」と紹介した。その上で、JICA調査団に加わり2012年に訪れたマラウイ共和国の様子を踏まえ、「日本で聞き取った地域の結束の仕方から土の作り方まで、幅広く海外に伝えてほしい」とエールを送った。

JICA農村開発部の朝川知佳さんは「町が発展した道のりを、日本の農村の代表例として学べた。国際協力を日本の文化に、との思いを共有できてうれしい」と笑顔だった。

茂原町長（左）と懇談するJICA職員